

NEDO Challenge, Satellite Data -農林水産業を衛星データでアップデート！- 最終選考会 / 衛星データ活用アワード2025-2026表彰式
プログラム(開催日:2026年7月15日)

※2026年6月30日時点のプログラムとなります(以降予定変更の可能性あり)

時間	内容
9:30	受付開始
9:50	主催挨拶・オープニングセッション
テーマ1 生産現場の課題解決に資する技術開発 ※1次審査通過時より提案名称に変更があるチームがございます	
10:15-11:49	①TWINZ Plus:衛星×気象データで農地ポテンシャルを可視化し、適地適作をアップデート 代表法人名:Penguin Labs合同会社 プレゼンター(敬称略):梶本 宗義 本提案では、「農地のポテンシャルを衛星×気象データで引き出し、適地適作をアップデートする」というコンセプトのもと、弊社が2025年1月にリリースした世界各国の気象データを活用した適正作物レコメンドサービス「TWINZ」に、新たに衛星データ(NDVI・土壌水分量等)、土壌・地形情報、2100年までの気候変動シナリオを統合した「TWINZ Plus」を開発し、科学的根拠に基づいた農地一筆単位での最適作物提案の実現を目的とする。
	②ベトナムのお米産業における持続可能な発展の実現 代表法人名:Green Carbon株式会社 プレゼンター(敬称略):横山 治生 ベトナム稲作では、生産者が生籾を重量で販売するため品質が価格に反映されにくいという構造的課題がある。本提案は、衛星データと現地データを統合し、栽培実態を可視化して「信用情報」として蓄積する新たな評価・流通モデルの構築を目指す。生籾の買取から精米・販売までを含むパイロットを実施し、サプライチェーンの実データを取得することで、品質に基づく適正価格の形成と調達リスクの低減を図る。将来的には、農業・金融・流通を横断する共通評価基盤として、食料安全保障と生産性向上に資するスマート農業モデルの実現を目指す。
	③スマート水産養殖:分子生態情報と海洋データ統合による魚病早期検出技術の開発 代表法人名:株式会社 極洋 プレゼンター(敬称略):田原 将初 水産養殖業において、「魚病(魚の病気)」の蔓延は、養殖魚の斃死、治療コストの増大、生産効率の低下を招き、その経済的損失は産業全体の持続性を脅かしている。本提案では、魚病発生履歴・環境DNA・衛星データをAIを用い統合解析することで、魚病の出現・増加、ひいては発生リスクを予測するモデルの構築を目指す。本事業は、従来の事後的な対処から予防的な措置への転換を図り、水産養殖業の安定的な生産基盤を確立する。
	④食料・飼料自給率向上および遊休農地解消のための衛星データ活用システム 代表法人名:株式会社アグリライト研究所 プレゼンター(敬称略):岩谷 潔 衛星データと作物発育モデルを活用し、食料・飼料自給率向上と遊休農地活用を目指す営農支援システムを開発します。本システムは、遊休農地での食用作物と飼料用作物の輪作を進める上で不可欠な、営農作業の省力化と作物品質の向上、農業機械の効率的運用を支援する各種予測情報を提供することで生産性と収益性を高め、遊休農地の効率的活用を促し、労働生産性の高い食料・飼料生産の確立と自給率の向上を目指します。
	⑤スペーステロワール ～衛星データによるテロワール可視化技術の開発と日本ワインの高付加価値化～ 代表法人名:キリンホールディングス株式会社 プレゼンター(敬称略):若林 英行 今回開発したアプリ「スペーステロワール」は、衛星データを用いたリモートセンシング技術と、ブドウ・ワイン成分分析データ等を統合・解析することにより、品種適地評価、将来の圃場環境予測、農地間比較など「土地の個性=テロワール」を見える化するインターフェースです。この技術で自治体・ワイナリー・農家が目指すワイン造りと経営判断の支援、さらには地域産業・日本ワイン市場の活性化と新価値創出の貢献を目指します。またワイン市場に限らない展開先や認証制度化も模索します。
11:49	休憩

<p>13:00-14:53</p>	<p>①衛星データを起点とした竹資源のサプライチェーン構築 代表法人名:スターフィールド株式会社 プレゼンター(敬称略):河田 涼士</p> <p>拡大する放置竹林は農地や森林を侵食し、私たちの生活や生態系に深刻な影響を与える全国的課題です。本提案は衛星データを用いて高精度な竹林分布図を作成し、農地・森林等のGIS情報と統合することでリスク評価や伐採適地を提示します。さらに伐採後の竹を循環利用し、地域産業復興と環境保全の両立を目指します。衛星データから始まる竹資源サプライチェーンを構築し、産官学と連携しながら持続可能な未来を切り開きます。</p> <p>②価格予測と需給リスクを見える化する農産物サプライチェーンAIダッシュボード ~衛星 x 気象 x 市場データで生産・流通を最適化し、価格平準化と食品ロスを削減~ 代表法人名:株式会社ファームシップ プレゼンター(敬称略):宇佐美 由久</p> <p>従来WAGRIで提供してきた農産物価格予測APIを基に、衛星データを加えてAIで予測精度を高めるとともに、各種リスク指標を提供するサービスの提案。生育状況、土壌水分、冠水、日照不足、高温リスクなどの衛星指標により、従来捉えにくかった異常気象、作況急変、供給不足、品質低下、物流遅延などの兆候を可視化する。品目・地域別の価格予測とリスク指標をわかりやすく提示し、バリューチェーン全体の意思決定を支援することで、流通安定化、価格平準化、食品ロス削減、災害時の食料供給強化に貢献する基盤サービスを目指す。</p> <p>③林業の現場負担を減らす衛星データ基盤 — 森林監視から需給予測・輸出入判断まで — 代表法人名:株式会社SenseField プレゼンター(敬称略):東出 泰治</p> <p>本提案は、衛星データを活用し、林業における現場確認や需給判断の負担を減らすためのデータ基盤である。森林側では、SAR衛星画像から伐採・開発・転用などの変化候補を抽出し、現地確認の優先順位づけを支援する。物流側では、原木市場の衛星画像からストック量や増減傾向を推定し、需給予測や輸出入判断に活用する。これらを継続的に蓄積し、森林管理と木材流通の判断を高度化する。</p> <p>④水稻栽培に関わる全ての人のための「ものさし」の開発 代表法人名:三菱電機ソフトウェア株式会社 プレゼンター(敬称略):鳥井 健司</p> <p>「令和の米騒動」と言われたコメの需給バランスの崩れを発端に、コメの見える化が求められています。そこで、衛星画像により全国約1600万筆の水田を一律に解析し、日本の水稻の現況をタイムリーに把握するとともに、気象データを組み合わせた予測を行うことで、生産・管理・研究・流通・販売、全ての水稻関係者に対して各種判断の基準となるコメの今を測る「ものさし」のように、客観的な解析結果を提供するサービスを提案します。</p> <p>⑤食料レジリエンス・アトラス(FRA) - Food Resilience Atlas - Satellite & Causal AI Platform - 代表法人名:富士通株式会社 プレゼンター(敬称略):土井 悠哉</p> <p>本提案『食料レジリエンス・アトラス』は、衛星データ×因果AIで港・空港・道路と生産・消費・輸入を結ぶサプライ網を可視化し、遮断時の影響を即時予測、代替ルートや備蓄活用を自動提案し、官民の迅速な意思決定を支援します。富士通が保有するAI技術を活用し、日本の食料安全保障強化と災害時の供給維持に貢献します。</p> <p>⑥eDNA(環境DNA)×衛星データで内水面漁業をDX化 -効率的な漁場整備と持続可能な水産資源管理の実現- 代表法人名:株式会社フィッシュパス プレゼンター(敬称略):中谷 優基</p> <p>環境DNA分析と衛星・地形データを統合し、魚類の生息情報と環境条件の関係を解析することで、生息適地を推定するプラットフォームを開発。環境DNA分析だけでは把握が難しい広域の河川環境を衛星データで補完することで、魚が「どこに、なぜ生息しているのか」を科学的に可視化した。さらに、衛星データを活用して過去から未来にわたる環境変化を捉えることで、生息環境の変遷や将来の生息適地を予測し、水産資源管理や河川環境の保全・再生、効率的な漁場整備を支援する。</p>
<p>14:53</p>	<p>休憩</p>
<p>スペシャルイベント「農林水産分野における衛星データ利活用の成功要因と資金獲得のポイント」</p>	
<p>15:05-15:55</p>	<p>「農林水産分野における衛星データ利活用の成功要因と資金獲得のポイント」をテーマに、有識者によるトークイベントを開催します ※詳細はホームページをご参照ください。</p> <p>【登壇者】 ・松尾 尚子 JAXA 第一宇宙技術部門 地球観測プログラム戦略室 室長 ・片桐 紀子 PwCコンサルティング 公共事業部 パートナー ・石塚 直樹 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域 農業環境情報グループ グループ長 ・寺岡 行雄 鹿児島大学 農学部 教授 ・斎藤 克弥 漁業情報サービスセンター 技術参与 ・東野 昭浩 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究総務官 ・宮路 出 農林中央金庫 執行役員 事業戦略投資部長</p>
<p>15:55</p>	<p>休憩</p>
<p>衛星データ活用アワード2025-2026 表彰</p>	
<p>16:05-16:22</p>	<p>衛星データ活用アワード2025-2026 講評、受賞者ショートピッチ、表彰式 最優秀賞、審査委員特別賞</p>
<p>NEDO Challenge, Satellite Data -農林水産業を衛星データでアップデート! - 表彰</p>	

16:22-16:56	NEDO Challenge, Satellite Data -農林水産業を衛星データでアップデート！- 審査結果発表、表彰式、審査委員講評 各テーマ:1位、2位、3位、審査委員特別賞
16:56-17:05	総評・閉会の挨拶 【登壇者】 ・東野 昭浩 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究総務官 ・高濱 航 経済産業省 製造産業局 宇宙産業課 課長

※閉会后、17:15～より懇親会を開催します。(18:15終了)